



みつぎ便り



第156号 9月号 令和元年9月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどりと公園課の花作りグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



コガネムシ

♪コガネムシはかねもちだ〜。

野口雨情作詞、中山晋平作曲のこの歌は多くの人が口ずさんだ記憶を持っていることでしょう。歌の影響は大きいと思われませんが、そればかりではなくコガネムシの体は緑っぽい金属光沢をし、体つきが丸みを帯びているので、親しみを感ずますね。でも、土の中に産卵された卵は植物の根をエサとし、成虫になるとクヌギやサクラなど広葉樹の葉を食べるため、いわゆる食害を

おこす害虫ともなっています。見次公園で一番良くわかるのは、園内に散在するアジサイです。その葉っぱを食べてあちこち穴だらけにしている様子が観察できます。

なお、金属光沢のあるものを総称して「コガネムシ」あるいは「カナブン」と呼ぶこともあるようです。例えば、カブトムシがコガネムシ科に属するように卵を生む場所、幼虫や成虫になつてからの食べ物等、生態にいろいろな違いがあり、なかなか奥深いので、その違いを調べてみてください。(静)

ヨウシユヤマゴボウ

別名アメリカヤマゴボウ、セイヨウヤマゴボウとも言われます。明治時代にアメリカから入ってきた帰化植物で、地下の根がごぼうに似ていることから付いた名前のようなです。でも、「ヤマゴボウなんてとんでもない」と言えます。何故なら、根から葉、実にいたるまで全体に毒性を持っているので、決して食べないで、見るだけにして下さい。



初夏、莖っぱいに白い小さな花が咲き、やがて緑色の実を付け、熟して紅紫色の房状に垂れ下がります。過去には、この紅紫色を活かして染色やインクに用いたこともあったようですが毒性がありますので、当然ながら問題が発生したようで、現在では利用されていません。

鳥に特別な解毒作用があるのか解明されていませんが、鳥は有毒といわれるこの実を食べても問題はないようである。この実を消化されずにフンとしてあちこちに運ばれます。見次公園の傾斜地の一面に自生し、鮮やかな紅紫色の実を付けているヨウシユヤマゴボウもそんな鳥が運んだ種から発芽したのかも知れません。(利)